

市全体の保育の質の維持・向上に向けた今後の取組について

1 本市の保育にかかるこれまでの取組と今後の方向性

- 子どもの健やかな育ちを支え、質の高い保育の機会を保障するためには、保育の受け皿整備を進めるとともに、保育の質を維持・向上させていくことが重要である。
- 保育の受け皿については、これまで積極的に民間施設整備を進め、待機児童ゼロを維持してきたが、児童数の減少傾向が見え始めたことから、今後は市内全体の保育定員、施設数の適正化を図っていく。
(令和3年度 市内保育施設数：284（うち民間施設198）)
- 保育の質の維持・向上については、各現場での継続的な取組が重要であり、これまでも研修会の開催や監査等を通じこれを進めてきたが、子どもたちを取り巻く環境の変化や、施設の種別や運営主体の多様化等の状況を踏まえ、公私問わず全ての施設職員や関係者が共通理解を図り、主体的・継続的・協同的に、地域全体の保育水準を高めあっていくための支援など、取組の強化が求められている。

2 市全体の保育の質の維持・向上に向けた今後の取組について

(1) 具体的な取組について

- 公私の運営主体を問わず、各施設における取組が進み、ひいては地域全体の保育水準の向上につながるよう、今後、市では、以下のとおり、保育の質の維持・向上を支援する取組を積極的に進めていく。
 - ①市立園の取組等の例を基に、関係者間で情報共有や意見交換を行う場の提供
(日常的な公開保育等を通じ多様な関係者との課題共有や語り合いの場を提供する)
 - ②地域におけるネットワーク構築、研修の企画・開催
(市立・私立による合同意見交換会の開催等を通じて現場の課題を把握・共有するとともに、課題の解決に向けた研修の開催等に取り組む)
 - ③指導保育士による域内施設の巡回・支援

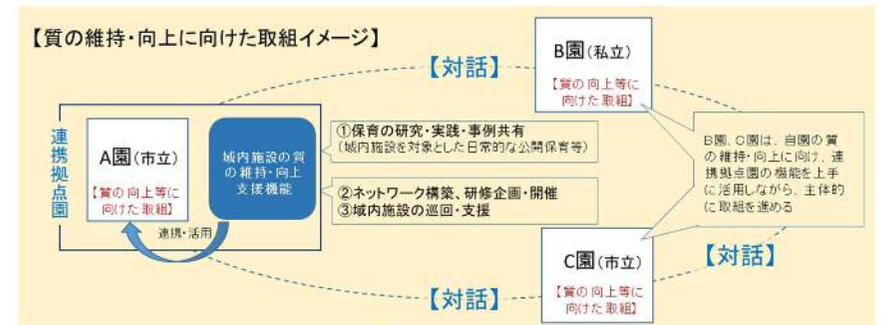
(2) 保育の質の維持・向上に向けた支援機能を置く市立園の設定について

- 左記取組を実効性のあるものとするためには、実施に向けた調整や企画等を行う専門人材等が、保育実践を担う職員とともに、現場を活用しながら取組を進めることが効果的である。
- そのため、保育の質の維持・向上に向けた支援機能を置く市立園を「連携拠点園」として設定し、域内施設の支援役を担う専門人材の配置等を進めるものとする。
- また、取組の早期実現のため、既存施設の活用を前提に、施設の老朽度や施設規模のほか、活動のしやすさ等を勘案し、下記施設を「連携拠点園」と定める。

【連携拠点園】

区	園名	区	園名
北 区	かやま保育園*	東 区	中山保育園
中央区	八千代保育園*	江南区	横越中央保育園*
秋葉区	小須戸保育園	南 区	諏訪木保育園
西 区	黒崎なかよし保育園	西蒲区	中之口こども園*

※ 全ての連携拠点園で①の取組を行うほか、人材等の集約・連携を図ることで企画立案機能強化等を図るため、「北・東」、「中央・西」、「江南・秋葉」、「南・西蒲」をそれぞれ連携区としたうえで、各連携区内のうち一園に事務局機能をもたせ、②③の取組を行う。



各施設の取組が活性化され、主体的・継続的・協同的に行われることで **地域全体の保育水準が向上**

【参考：連携拠点園について】

- 新潟市立保育園配置計画では「基幹保育園」と呼称していたが、より役割が分かりやすいよう名称を改めた。
- 連携拠点園では、やむを得ない事情(定員に空きがない、医療的ケア児で受入に必要な専門職の配置が難しい場合等)により、保護者が利用を希望する施設での受入等が難しい場合の対応も想定している。
- 当面の間は上記8園を連携拠点園とするが、今後の状況を踏まえて園数や対象園等の見直しも検討していく。

連携拠点園の設定等にかかる幼保部会委員への意見照会結果

No.	内容
1	・基幹保育園から連携拠点園へ名称変更した点は良い。
2	・各園と連携拠点園とが上下関係に無いことを伝えるため、「各園は『必要に応じて』連携拠点園の機能を活用し、取組を進める」というように表現を修正してはどうか
3	・連携拠点園については、一刻も早く実現してほしい。
4	・連携拠点園において休日保育を実施することを検討してほしい
5	・中央区と西区は施設数も多いため、連携拠点園は、区に一つではなく複数あってもよいと思う
6	・日常的に保育現場を公開することは賛成。関係者間には親も参加し、課題を共有しながら改善点を見つけて欲しいと思う。
7	・地域を巻き込むことは大切だと思う。
8	・指導保育士と地域の人と一緒に施設を巡回することで支援の輪が広がり関心度も上がると思う。
9	・私立幼稚園などでは伝統もあり大切にしつつ問題解決してほしいと思う。
10	・一人ひとりの園児に目が行き届く保育をお願いしたいと思っている。
11	<p>・保育の質の具体的な定義を明確にするべき。子ども目線になっているのか。</p> <p>・Society5.0やVUCAの時代等言われている中で、新潟市が掲げる「保育の質」がそれに準拠したものになっているのか。昨今では、保育→今の子どもに寄り添うこと、幼児教育→子どもたちの未来を考え、その力を育むことと捉えられている。</p> <p>・予測不可能な時代を生き抜く子どもたちが必要となってくる力、それを育むための能力（非認知能力）を培う「幼児教育」が組み込まれているのか。</p>

連携拠点園の設定等にかかる幼保部会委員への意見照会結果

No.	内容
12	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の適正配置について。 ・園児減少の中、定員割れを起こしている施設も増えている。 ・新設を考えるのではなくまずは既存の施設をいかに有効利用すべきが考えるべき。 ・定員ベースではなく実員ベースで考えるべきではないか。 ・1号認定児が激減している中、今後認定こども園化は必要か。 ・公立保育園の統合廃止はスムーズに行うべきであり、その際新設園と共存は避けるべき。既存園の経営に大きな影響が出る
13	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の質については、課題が多いと感じていたので、このような取組はよい。
14	<ul style="list-style-type: none"> ・横同士の連携、ネットワークは、様々な分野で必要性が叫ばれているところでもある。
15	<ul style="list-style-type: none"> ・国の検討会における「職員間の対話を促す職場の環境づくり」「地域における情報共有と学びあいの場づくり」の2点はこれまであまり意識がされてこなかった部分であると感じているので、この点の取組が進むとよい。
16	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の質の向上にかかる取組みを主で行う職員（フリー保育士など）を連携拠点園に配置するのもよい。必要なこと。ぜひ他園とのつなぎ役となってほしい。
17	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、（つなぎ役となる職員が配置される）連携拠点園が増えていくとよい。
18	<ul style="list-style-type: none"> ・（子育てほっとステーションと保育コンシェルジュを連携させながら）ほっとステーションがしっかりと機能するようにしてほしい。
19	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフト的取組も大事だが、より良い保育を行うためには、やはりハード面も大事。ハード面も整備を進めてほしい。
20	<ul style="list-style-type: none"> ・目的からぶれずに、立ち戻りながらPDCAを重ねていけるとよい。
21	<ul style="list-style-type: none"> ・現場の負担が軽減され、保育の楽しさを感じる場が増えていくことを願う。